



アロハの精神

「アロハ」といえば、ハワイで交わされているあいさつのひとつですが、そこには深い意味があります。

アロハとは、全てを受け入れる「心」や「精神」であり、「思いやり」「尊敬」「愛」をもつて人に接する事を意味しています。

アロハは英語で「A・R・O・H・A」と表記します。A R O H Aの「A」は思いやり、「R」は協調性、「O」は喜び、「H」は謙虚・素直な心、「A」は忍耐をも意味しています。

ハワイはかつてアロハ州と呼ばれていたところがありました。「思いやりと素直な心をもつて他者に感謝し、慈悲と愛情を与え幸福を分かち合う」との思いがあったそうです。

さて、話題は変わりますが、東京が江戸と呼ばれていたその昔、18世紀の江戸の人口は

140万人に達し、当時世界最大の都市といわれました。その人口密度は現在の東京よりもなお高かったようです。

江戸の市街地は武家の住居により占められていたので、人口の大半を占める町民は限られた地域にひしめき合っていたことになりました。

そんな暮らしぶりの中で、相手を思いやることを第一義として自分を磨き、そして相手を尊重することや素直で自由な発想ができる人、相手を思いやることのできる人を「江戸っ子」と呼んでいました。

「江戸っ子」の多くは長屋に住み、「思いやり」や「尊敬」、「愛」をもって隣人と接することが極めて大切でした。

また、親から受け継ぎ磨き上げた江戸っ子の気質に、「江戸しぐさ」と呼ばれているものがあります。「江戸しぐさ」とは、日常の生活や往来でのマナーのことです。



狭い往来をすれ違う時など、ちよつと会釈をし、「肩引き」をして、お互いがぶつからないようにするとか、雨のしずくが相手にかからないように「傘かしげ」をするとかいったような、ちよつとした配り思いやりなど、日常の行動を現した言葉です。

「アロハ」と「江戸しぐさ」。先日、下町情緒あふれる墨田の街を巡りながら、今地域で失われているものを思うことでした。

指宿市長 豊留悦男

